

東京 IPO 特別コラム

2018年3月14日 Vol.116

まだ油断禁物の2番底形成後の反転相場

1月後半から低迷状態が続いた株式相場は2番底形成と米国株とりわけNASDAQの高値更新でようやく反転の動きが見られます。ただ昨晚のNYダウ、NASDAQの小反落によって日経平均も下落するなど頭重い展開が続いており、なおも慎重な投資家が多いのかと思います。まだまだ油断はできない2番底形成後の反転相場と言えるのかも知れません。週明けの全体相場が反転上昇に向かう中で、個別銘柄も多少は反転傾向にあるとは言え、業績の大幅な下方修正で売られたクロスフォー（7810）のように、それぞれの事情でまだ低迷したままで推移している銘柄が多いのかも知れません。しかしながら、総じて言えば、こうした相場全体の停滞局面でリスクテイクされてきた投資家にこそ大きなリターンがもたらされるのではないかと考えられます。

こうした中で明日15日から3月IPOの後半戦が始まります。月末までに一挙に13銘柄がIPOの予定で、既に4月も4銘柄がIPOに名乗りを上げています。全体相場の調整の中で2月後半からのIPO3銘柄は早くも調整局面になっており、その分初値は穏健なものとなる可能性はありますが、内容的な良さを吟味しながらの取り組みとなります。

15日は有機化合物の受託研究、受託製造・分離精製及び技術開発を行う神戸天然物化学（6568）がマザーズに上場。公開価格は2340円で上場時の時価総額は173億円。今期の業績が大きく拡大する見通しのため人気は集めそう。16日は製造派遣・製造請負、一般事務派遣・BPO、施設介護・在宅介護事業を展開する日総工産（6569）が東証1部に上場する予定。公開価格は3250円で上場時の時価総額は253億円となります。人材系の企業は概ね業績好調。東証1部で比較的穏健な初値形成ができればその後の上昇が期待されます。また、同日に投資用不動産の企画・開発・建築請負・販売及び管理等を行うフェイスネットワーク（3489）がマザーズ市場に上場予定。公開価格は1400円で上場時の時価総額は67億円。不動産系で前期実績は経常利益10億円、今期は3Qまでで同じく経常利益は6.4億円という水準ですので比較的穏健な初値が形成されればリターンを上げるチャンスが期待されます。

来週以降もIPO銘柄が続きます。その中では公開価格が下限の1150円で決まった仮設資材、物流機器を中心とした金属製品の製造販売を行う東証2部上場予定の信和（3447）が気になるようです。上場時の時価総額は159億円で前期実績の経常利益25.6億円に対しては比較的リーズナブルな印象ですが、通常は下限で決まった銘柄は人気離散になりがちですので初値が気になるようです。IPO銘柄にご関心のある皆様のリスクテイクの際には引き続き東京IPOサイトをご参照賜りましたら幸いです。

（東京 IPO コラムニスト 松尾範久）